

## 令和5年度「人権教育研究指定校事業」事業実施報告書

委託先（ 愛媛県 ）

### 1. 調査研究のテーマ、概要

調査研究のテーマ	自ら課題を発見し、解決の道筋を共に考え、表現する生徒の育成
----------	-------------------------------

#### ○調査研究のテーマを設定した目的

本校は、1年生31名、2年生33名、3年生34名、計98名であり、校区内の5つの小学校から進学してくる。ほとんどの小学校が複式学級を有する小規模校である。小学校での丁寧な指導により、生徒は、授業や様々な活動に真面目にかつ意欲的に取り組むことができている。一方、基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決能力が十分に身に付いていない生徒が少なくない。小学校での少人数から中学校の人数増加にギャップを感じ、自分の考えを表現しづらくなり、主体的に授業や活動に参加できず、自己肯定感の低い生徒もいる。また、同和問題をはじめとする人権問題について、差別に対する憤りや、差別をなくしていこうという実践力までには、まだ高めることができていない。その原因の一つとして、生徒が「我が事」として人権問題を受け止めておらず、傍観者的な立場であることが考えられる。

そこで、生徒一人一人が人権課題に気づき、その問題解決の道筋を仲間と共に考え、自分の考えを表現する学習を、各教科等をはじめ学校行事や短学活等も含めた全ての教育活動を通して積み重ねることにより、自ら行動することの大切さを実感させ、同和問題をはじめとする様々な人権問題を解決する主体者として行動できる生徒を育てたいと考えた。

また、令和3・4年度久万高原町人権教育研究指定校として、新学習指導要領のもと、人権・同和教育については、プロジェクトチームをつくり、研究を進めている。日常の学校教育活動全般を見直し、学校行事をはじめとする体験的な活動において、人権の視点を明確にした指導を行うことで、系統的・横断的に、学び考えさせる授業実践を目指したいと考え、本研究テーマを設定した。

#### ○調査研究の概要

同和問題をはじめとする個別の人権課題に関する教職員研修を充実させることによって、差別の現実から学び、指導者の人権感覚や指導力を磨く。また、系統的・横断的な全体計画・年間指導計画の作成や問題解決的な人権学習の充実・改善を図り、生徒の人権意識を高める。全ての教育活動の基盤に人権・同和教育を置き、家庭・地域との連携を図りながら、「我が事」として問題解決に主体的に取り組む生徒を育てる。

## 2. 基本情報

### 研究指定校の概要

○学校名

久万高原町立久万中学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

5 学級（うち特別支援学級 2 学級）

○児童生徒数（R. 5. 5. 1）

全生徒数：98 名

○URL

<https://kuma-j.esnet.ed.jp/>

○指定理由

久万高原町では、町民すべてが人権問題を「我が事」として取り組む人権・同和教育を推進しており、「花咲く日学習会」や新規採用転入者向けのフィールドワークなど、差別解消をけん引するリーダーの育成に長年、地道に取り組んできた。久万中学校においても、人権・同和教育を核とした学校づくりの歴史は古く、長きにわたり培われてきた人権・同和教育実践が、生徒たちにも確実に継承されてきている。「みんなが主役」という生徒の合言葉のもと、みんなの人権が尊重され、みんなが主役の出番づくりを日々の様々な教育活動で展開している。また、令和3・4年度は、久万高原町人権・同和教育研究指定校として、町内各校のみならず、町民への人権・同和教育の推進を担ってきた。

2年間の研究推進の成果と課題を基に、参加体験型の学習指導の工夫・充実や、系統的・横断的なカリキュラム編成、家庭・地域への啓発に取り組むことにより、人権・同和教育のさらなる充実と生徒の人権感覚の育成、向上が期待できるとともに、11月の研究発表会を通じて取組を県全体に広く周知できることから、研究指定校にふさわしいと考える。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題 1 つに◎印を付与

①子供	○
②女性	
③高齢者	○
④障害者	○
⑤同和問題	◎
⑥アイヌの人々	
⑦外国人	
⑧- 1 HIV 感染者等	
⑧- 2 ハンセン病患者等	
⑨刑を終えて出所した人	
⑩犯罪被害者等	
⑪インターネットによる人権侵害	○
⑫北朝鮮当局による拉致問題等	
⑬性的指向、性自認	
⑭その他 (            )	

### 3. 調査研究の内容等

#### ○調査研究の内容

ア 教職員一人一人が差別の現実に関心し、同和問題をはじめとする様々な人権問題に対する理解を深め、生徒一人一人が人権課題に関心し、その問題解決の道筋を仲間と共に考え、自分の考えを表現する授業実践をすることで、差別解消に向けて行動しようとする生徒を育成できるであろう。

イ 人権・同和教育を教育活動の基盤としてこれまでの行事や指導計画を見直し、仲間意識や帰属感を感じられる活動を積み重ねることで、他人を気遣うとともに、自己肯定感が高揚し、主体的に活動する生徒が育つであろう。

ウ 保護者や地域への啓発活動を積極的に行うことで、学校と家庭・地域の連携が図られるであろう。

県教育委員会では、指導主事による訪問指導等を通じて連携を図り、生徒や地域の実態に応じた研究の方向性や教職員の指導力の向上のための助言や援助にあたる。

#### ○実施方法

ア 教職員の人権感覚や実践力を高める指導の充実

(ア) 人権・同和教育プロジェクトチームの設置

人権・同和教育プロジェクトチーム研究部会の一つに位置付けた。全校体制で研究を進めていくためには、教職員の総意に基づく研究主題設定や研究内容および方法等の共通理解が大切である。また、具体的に研究を進めていく際には、教科等部会・学年部会や研究推進部会等による組織的かつ有機的な研究体制も必要である。そのため、人権・同和教育主任が中心となり、人権・同和教育の視点を明確にした授業改善に取り組んだ。

(イ) 地域の学習会（花咲く日学習会）への参加

校区内にある入野福祉館において、定期的に関心に関する学習会が開かれており、本校の職員も出席し、研修に努めた。部落差別やハンセン病患者等の人権、障がいのある人・高齢者の人権などに関する様々な講師を招き、体験に基づいた話を聞くことを通して、職員の人権・同和教育に関する資質向上につながった。

(ウ) 人権に関する研修会への積極的な参加

久万高原町新規採用者向け研修や、転入教育・行政職員人権・同和教育研修会に積極的に参加し、様々な人権課題についての現状と課題を把握し、人権・同和教育の推進者としての資質向上を図った。また、久万高原町特別支援連携協議会と郡学校保健会が共催したネット・ゲーム依存の実態と予防の講演会では、子どもを取り巻く環境や子どもを多面的に見て、どのように関わっていけばよいかを考え、校内で共有した。

(エ) 目指す生徒像の共通理解

1学期に、全校生徒を対象にアンケートを実施した。「自分にはよいところがあると思いますか」の問いに対して肯定的に受け止めている生徒が多く、「いじめや差別をしている場面を見たとき、どんな行動をしたいと思いますか（複数回答可）」の問いには、「先生に相談する（56.5%）」「注意する（54.1%）」「友達に相談する（49.4%）」「家族に相談する（29.4%）」など、全体の9割以上の生徒が行動に移そうとする意識がみられた。アンケート結果から、自尊感情の低い生徒や、実際の行動につながりにくい1割の生徒を、問題解決に向けて一歩踏み出せる生徒にするために、生徒間、生徒と教員間の信頼関係の構築や安心して自分を表現できる環境づくりをしていくよう、教員間で共通理解を図った。

(オ) 我が事として考え、表現する授業づくりの実践

生徒の意見や感想に対して、段階的に問い返しを行う授業づくりに取り組んだ。「問い直す、問い返す、問い正す」をキーワードに、授業のねらいを達成できるよう、生徒の意見をつなげていくことを意識した。問い返しを繰り返す中で、生徒の本音に迫ることのできた部分もあり、人権課題を自分のこととして考えるのに有効であった。

1年生の道徳科における渋染一揆の授業では、一揆に対する不安や恐怖は本当になかったのか、命を懸けてまで闘った人たちの心の中はどんなものだったのか、何度も問い返すことで、生徒たちの心の揺れが見えたり、より深く考える姿勢が見えたりした。

(カ) 地域の学習会（同和問題授業づくり研究会）との連携

同和問題授業づくり研究会は、小学校の教諭も参加しており、小学校と中学校の情報交換だけでなく、小・中9年間の学習への見通しを立てた人権・同和教育を進める上でも重要な役割を担った。久万高原町の地域教材である「A子さんからの手紙」をもとに協議を行う中で、差別の現実がここにあり、日常生活の根底にある差別意識が、落書きという陰湿で卑劣な行為によって表れていることをおさえた。また、A子さんからの思いを受け止めた保護者、仲間の考え方にも視点を当てながら、同和問題の解決において、正しく理解することが、正しい判断力・行動力につながることなど、人権・同和教育に関する新たな視点を見出すこともあり、教職員の人権感覚の向上に有用であった。

イ 人権・同和教育を基盤とし、自己肯定感の高揚を目的とした教育活動の充実

(ア) 系統的に実践できる全体計画・年間指導計画の作成

学校行事等の中で育てていく人権・同和教育の視点を明確にし、全ての教育活動を通して人権課題についての指導を、年間を通して系統的に実践できるよう、各教科との関連性に基づいた人権・同和教育全体計画・年間指導計画を作成した。

道徳科においては、内容項目の「公正、公平、社会正義」や「よりよく生きる喜び」「思いやり、感謝」「生命の尊さ」を中心に押さえることによって、同和問題をはじめ

とする様々な人権問題について考える機会を増やし、授業を通して、偏見や差別意識を持たないことの大切さに気付くきっかけにつなげた。

(イ) 各学年の授業実践

○ 1年生の授業実践

渋染一揆の学習を通して、人間の尊厳を自覚し、手を携え、支え合って、闘い生きる姿から、部落差別の不合理に憤りを持ち、差別を断固として許さない強い意志とたくましい態度を育てるために授業を行った。1人1台端末を利用して、複数の意見を同時に見られるよう工夫し、生徒の多角的・多面的な思考を促した。他者の考えに耳を傾け、思いに触れることで、互いを認め合う気持ちが醸成され、よい雰囲気の中で授業を展開することができた。研究協議では、ねらいにせまる授業改善や構造的な板書についての助言をいただき、充実した研修となった。

○ 2年生の授業実践

「夕やけがうつくしい」の教材を用いて、学習を行った。部落差別によって作者が奪われたものを考えさせることで、差別への強い憤りを感じさせるとともに、差別がどれだけ卑劣なものであるかを理解させるよう工夫した。また、「夕焼けが美しい」とは何を意味するのかを具体的に考えさせるとともに、作者の生き方から学んだことを考えさせることで、部落差別を自分自身の問題だと捉えることができ、偏見や差別に立ち向かう意欲を育てた。

○ 3年生の授業実践

「ある先輩からの手紙」の学習を行った。不採用になったときの主人公の気持ちを考えさせることで、部落差別が人間の一生を左右する重大かつ深刻な問題であることを理解させるよう工夫した。また、主人公だけでなく、支えてきた仲間への存在にも気付かせることで、差別解消に向けて仲間とともに立ち上がることの大切さを実感させることができた。

ウ 自己肯定感を高めるための体制づくり

(ア) 全教職員による教育相談（学期に1回）および不登校支援

全教職員による教育相談を行い、様々な立場の教職員が生徒と関わる時間を持つことで、問題の早期発見や生徒理解に努めた。その中で、教職員が前向きな言葉掛けを行い、生徒の自己肯定感の向上につなげた。また、生徒理解の深まりが、授業改善にもつながった。

不登校支援として生徒の心のケアにもあたった。別室での教科学習や創作活動を通じて、成功体験を積み重ねることが生徒の自信へとつながった。また、親しい友人からの声掛け、オンラインでの授業や学校行事への参加を通して、学級や学校と生徒とのつながりを保つ取組が、登校意欲の向上につながった。

(イ) 生徒主体の人権集会と人権劇の上演（地域の方を指導者に迎えて）

総合的な学習の時間の文化体験講座の一つに、人権劇を行う講座があり、12月の人

権参観日で「身元調査お断り運動」をテーマとした劇を上演した。久万高原町教育委員会生涯学習班社会教育指導員、地域の劇団員の方を講師に迎え、指導していただいた。劇中の登場人物の心情を考えながら演じることで、身元調査が重大な人権侵害につながるものであることがより理解できた。また、正しい知識を学ばなければ、普段の生活の何気ない行動が無自覚に他人を傷つけてしまうことにつながり、身元調査と同じ構造であることに気付かせることもできた。さらに、人権劇を上演することで、見る人に人権の大切さを訴えるだけでなく、生徒一人一人の人権意識や人権感覚を改めて見直すきっかけとなった。

(ウ) 生徒会活動を中心とした、主体的・協働的活動の充実

生徒会を中心として異学年との交流を行うブロック活動を行った。この取組は、人権・同和教育の研究を進める観点からも、多様性を認める温かい仲間づくりを進める上で非常に有効な手段であった。1学期のブロック結団式をスタートに、2学期の運動会で交流する機会を設けた。日々の練習の中で、仲間意識に支えられたより良い人間関係が構築されるだけでなく、様々な問題に直面したときに、自らの課題として正しく認識し、問題の解決に主体的に取り組む生徒の育成につなげることができた。

また、生活・人権委員会を中心として、生徒玄関でのあいさつ運動や募金活動に取り組んだ。特にあいさつ運動は、生徒同士、また、生徒と教職員との明るいコミュニケーションをとる場としてもよい機会となった。互いを認め合う心の育成が、普段の学校生活にも生かされており、学級での話し合い活動などで、集団の秩序や約束事を守る雰囲気がつくられ、その中で安心して自分の意見や考えを発表できる集団がつくられてきた。

(エ) 心を豊かにする教室掲示や廊下掲示の工夫

教室や廊下には、生徒の活動を分かりやすく掲示し、自分の存在が認められていると実感できるものになるよう工夫した。また、季節を感じる掲示物や、教科ごとの生徒の作品などを掲示することで、豊かな感性を育み、多様な価値観に触れることにもつながった。

エ 保護者・地域との連携

(ア) 3（スリー）出会ウィーク（2年生職場体験学習）

3出会ウィークと称し、2年生では職場体験学習を行った。事業所の方と適切にコミュニケーションをとりながら、仕事に取り組むことで自主性を育むことができた。職場体験学習当日には、一生懸命活動に励む生徒の姿が見られた。生徒たちは、体験を通して、自らの意思で積極的に動くことの大切さや仕事のやりがいを感じることができた。

(イ) 文化体験講座

「久万中伝統・文化フェスタ」と題し、吹奏楽部の演奏、学年合唱、文化体験講座、有志発表等、生徒が主体となって活躍できる活動を行った。特に、文化体験講座は、

郷土の伝統的な文化の体験を通して、地域社会の一員として自覚を持って郷土を愛し、郷土の発展に努めようとする心の育成をねらいとした。また、学年合唱や希望者による有志発表も取り入れ、自己の成長に気付く喜びを実感させたり、様々な関わりの中で自分への自信を持たせたりすることで、自己肯定感を高め、自己表現力を身に付けさせることができた。互いの個性を認め合う集団の育成につなげることができた。

(ウ) 学級通信や人権・同和教育通信、学校ホームページでの情報発信と啓発

家庭・地域と連携した人権・同和教育の推進では、学級通信や学校ホームページでの情報発信を行った。学級通信では、人権・同和教育に関する内容の道德科の授業を行った後の生徒の振り返りを掲載した。人権学習に関する学級通信を定期的に発行することで、「保護者・子ども・学校」で協働しながら生徒の人権意識を高める話題を提供し、人権意識を育むことをねらいとした。

(エ) 継続的な教育活動を意識した小中および地域との連携

小学校との連携では、運動会でのボランティアスタッフとしての関わりがある。卒業した小学校の運動会で、競技や準備のサポートを率先して行い、運動会の成功に力を発揮した。その光景は、後輩となる小学生やいつも温かい眼差しでみつめてくださる地域の方々に見ていただく機会となり、ねぎらいの言葉や感謝の言葉が、中学生の自己有用感を育む一助となった。また、ホームページや便りなど学校からの情報発信に加え、様々な地域行事への生徒の参加が、住民の方との距離を縮めるよい機会となり、地域の歴史や伝統文化の継承等、「久万高原町で生きる中学生」の育成につながった。



## 4. 検証・評価・改善・普及

「今までに学習した（知っている）人権課題は何ですか（複数回答可）」で「同和問題（部落差別）」を選択した生徒は 86%から 94%に増加した。全学年で計画的・系統的に学習したり、地域で実際に起こった問題を教材として活用したりしたことで、部落差別が今なお身近にあり、自分たちが解決すべき問題であることへの理解と解消していかなければならない重大な問題であるという認識が深まった。

また、関連して、「〇〇町に住んでいる人とは関わらない方がいいよと言われました。あなたはどうしますか」の問いに対して、「その発言が間違っていることについて話す」と答えた生徒が 62%から 86%に増加した。授業で学んだ知識をもとに、実際の行動に移していこうとする生徒が増えてきたことは、本研究の大きな成果の一つであると考えている。

「自分にはよいところがありますか」の問いに対して、「思う」「どちらかといえば思う」と答えた生徒が 76%から 86%に増加した。各活動において、リーダーを中心に仲間を支える機運が育ち、様々な場面で生徒が自主的に活動することが多くなった。今まで自分を振り返り、これからの自分を安心して語れる集団の中で、互いに認め合うことの大切さを実感し、人権感覚のさらなる向上につながったと考えられる。

授業においては、人権・同和教育の視点を明確にし、教師と生徒が共に学ぶ授業づくりに取り組んだ結果、学級活動や道徳科の生徒の感想にも変化があらわれ、人権問題を自分のこととして捉え、意見や考えをしっかりと持って発表できるようになってきた。

今後の展望としては、学習の場である学級・学校が「誰もが安心して過ごせる場・居場所のある場」であるために、教師自身が生徒たちの様子にしっかりと目を向けて、教師も生徒も自分の思いを伝え合い、互いがつながる仲間づくりを目指して、日々実践を重ねていくよう努めていく。

部活動での活躍や授業の様子、学校行事などについての情報をホームページなどで発信した。人権・同和教育の授業に関する内容も掲載し、地域や保護者の人権意識の高揚にもつなげた。学級通信では、生徒の感想を多くの掲載することで、家庭での人権・同和教育に関する意識の向上を図った。文化体験講座や職場体験学習を通して、地域の方とのつながりを感じ、自分の住んでいる地域のことを知ったり、魅力を発見したりすることで、生徒が地域に誇りをもつことにつながった。人権に関する研修会に参加した保護者の感想に「不合理な差別について、歴史的背景を学ばずに、噂だけを信じて差別者になっている人もいるのではないか。そのことが、寝た子を起こすなといわれることにもつながっていると感じた。正しい知識をもって自分のこととして考えていくことが大切であると学んだ。今日の研修は、自分も一緒になって参加者の方と考えることができた」というものがあり、研修が保護者にとって充実した学びの場であったことを実感した。しかし、情報の発信は継続的に行ったものの、人権参観日や人権に関する研修会へ

の参加について、幅広い世代の十分な参加が実現できなかったことを課題として捉えている。その理由として、啓発活動に無関心であることや、保護者の日常生活や仕事の制約から時間を割けないことが考えられる。今後は、保護者の関心を高め、負担にならない方法を工夫して情報を提供し、保護者も巻き込んだ人権・同和教育を進めていく方法が求められる。

## 5. 人権教育に係る年間指導計画

久万中学校

令和5年度 人権・同和教育年間指導計画 久万高原町立久万中学校 1年生

月	教科等	教材名 題材名	人権・同和教育の視点	【個別の人権課題】 《普遍的な視点》 (3つの側面)
4	学級活動	学級開き	・教師の生き方を語り、本音で関わり合う関係をつくる。	【その他の重要課題】 《共感的に理解する力》 (価値的・態度的側面)
	体育	体づくり運動	・ペアで体はぐし運動を行い、相互の心身の状況を理解させる。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
5	学級活動	人権獲得の歴史	・差別が歴史の中でどのようにつくられてきたかを学び、差別の不合理さを感じ取らせる。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (知識的側面)
	理科	植物の生態と種類	・植物の体のつくりと働きを知り、命の連続性について理解させる。	【その他の重要課題】 《生命尊重》 (価値的・態度的側面)
6	国語	話の構成を工夫しよう	・自分の思いを他者にわかりやすく伝えるための話の構成の工夫を身に付ける。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
	美術	人権ポスター	・自分が学習した個別の人権課題について、啓発ポスターに表すことで自他の人権意識を高める。	【誰がいのある人・司和問題・性的指向・性自認】 《自他の尊重》 (価値的・態度的側面)
	音楽	リズムdo go	・アルトリコーダの奏法や音色を知り、人の演奏を見たり聴いたりすることで、奏者の努力や想いを感じ取らせる。	【その他の重要課題】 《共感的態度》 (価値的・態度的側面)
	道徳	波染一揆	・自らの尊厳と権利を守り抜こうと立ち上がった人々の姿から差別の不合理さに立ち向かうことの偉大さと重要性に気付かせ、決して差別を許さないという態度を育てる。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (価値的・態度的側面)
7	保健体育	水泳	・水難事故から自他の命を守る方法を学ぶとともに、命の尊さを考えさせる。	【その他の重要課題】 《生命尊重》 (技能的側面)
	保健体育	生殖機能の成熟	・子どもを産み育てる体へ成熟することが命をつなぐことを理解させる。	【その他の重要課題】 《生命尊重・自尊感情》 (知識的側面)
	保健体育	異性の尊厳	・男女が互いに尊重し合うことの大切さについて理解を深める。	【女性】 《自他の尊重》 (価値的・態度的側面)
	道徳	いじめをノックアウト	・いじめを許さない態度やいじめのない集団や社会を表現していこうとする実践意欲を育てる。	【子ども】 《公正な判断》 (技能的側面)
9	学級活動	運動会に向けて	・ブロック活動や学年団体種目などの練習を通して、仲間と協力することの意義と大切さを体得させる。	【その他の重要課題】 《人間関係を調整する力》 (技能的側面)
	英語	The way to school	・世界には通学困難な子どもがいることを知ること、世界の人権問題について興味をもたせる。	【子ども】 《共感的に理解する力》 (知識的側面)
	道徳	半分おとな、半分子ども	・心と形が一体となった礼儀の意義に気付き、時と場に応じて適切な言動をとうとする意欲を育てる。	【子ども】 《共生社会の実現》 (価値的・態度的側面)
10	保健体育	器械運動	・ともに教え合い、技量の向上に努めることで相互理解を深める。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)

	社会	奈良時代の人々の暮らし	・支配者と被支配者の関係について知り、その不合理さに気付かせる。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (知識的側面)
	音楽	学年合唱の発表	・学級の仲間とともに合唱曲をつくり上げる過程を通して、より深い絆を築かせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	道徳	いじめSTOPディに向けて	・いじめ問題に主体的に取り組む意識をもたせ、自らの言動を振り返りいじめを解決するための意欲を高める。	【子ども】 《人間の尊厳》 (価値的・態度的側面)
11	道徳	A子さんからの手紙	・自らが出合った差別事象から逃げず、手紙を書いたA子さんの行動を通して、部落差別は身近にあることに気付き、決して差別を許さないという態度を肌で感じ、実践しようとする意欲を高める。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (技能的側面)
12	保健体育	武道	・互いを尊重し合いながら、稽古をすることで感謝することや相手を敬うことの大切さを垣解させる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	学級活動	ちがいのちがいが	・身近にある様々な「ちがいが」や世の中にあるいろいろな差別や偏見への認識を深める。	【女性・子ども・高齢者・障がいのある人・外国人・エイズ患者・HIV感染者・ハンセン病患者・回復者及びその家族・性的指向・性自認・その他の重要課題】 《多様性の尊重》 (価値的・態度的側面)
	特別活動	人権フェスティバル	・久万高原町による様々な人権に関する催しを観覧し、人権に関する理解を深めさせる。	【その他の重要課題】 《共生社会の実現》 (知識的側面)
1	数学	平面図形	・自分の考えを、論理的に筋道を立てて、相手に分かりやすく説明することができる。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
	技術・家庭科	家族の住まいを安全・安心に	・ユニバーサルデザインについて考え、様々な人が快適に過ごせる工夫について考えさせる。	【子ども・高齢者・障がいのある人・外国人】 《共生社会の実現》 (知識的側面)
2	道徳	言葉の向きように	・人それぞれにいろいろなものの見方・考え方があることを理解し、寛容の心を持って他者と接していく力を育てる。	【その他の重要課題】 《多様性の尊重》 (技能的側面)
	保健体育	球技	・ゲームで話し合い、練習方法や試合の作戦を立てることでより深いつながりをつくるとともに、ルールの遵守や運動の不徳な生徒へ配慮する等、よりよい人間関係づくりに必要なことを学ばせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
3				

## 令和5年度 人権・同和教育年間指導計画 久万高原町立久万中学校 2年生

月	教科等	教材名 題材名	人権・同和教育の視点	【個別の人権課題】 《普遍的な視点》 (3つの側面)
4	学級活動	学級開き	・教師の生き方を語り、本音で関わり合う関係をつくる。	【その他の重要課題】 《共感的に理解する力》 (価値的・態度的側面)
	保健体育	体づくり運動	・ペアで体はぐし運動などを行い、相互の心身の状況を理解させる。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
5	技術・家庭科	生物を育てるための計画と管理	・動植物の育成の理解や実習を通して生物を愛護する態度や生命を尊重する態度養わせる。	【その他の重要課題】 《共生社会の実現》 (知識的側面)
	学級活動	身元調査お断り運動	・町民アンケートの結果をもとに、身元調査お断り運動の意義について理解させる。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (知識的側面)
6	社会	アイヌ民族との交易	・アイヌ民族の文化や生活について知る。	【その他の重要課題】 《多様性の尊重》 (知識的側面)
	美術	人権ポスター	・自分が学習した個別の人権課題について、啓発ポスターに表すことで自他の人権意識を高める。	【偏見がある人・同和問題・性的指向・性自認】 《自他の尊重》 (価値的・態度的側面)
	国語	短歌の鑑賞	・友達の作った短歌を鑑賞し、作者の思いに触れる。	【その他の重要課題】 《共感的態度》 (価値的・態度的側面)
	道徳	A子さんからの手紙	・身近で起こった差別事象とそれを見逃さず、手紙を書いたA子さんの態度を通して、部落差別は身近にあることに気づき、決して差別を許さないという態度を肌で感じ、実践しようとする意欲を高める。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (技能的側面)
7	総合	職場体験学習(3出会いウィーク)	・職場体験を通して、3つの出会い「自分自身との出会い」「他者との出会い」「新しい世界との出会い」から人との関わり方の大切さや楽しさを学ばせる。	【その他の重要課題】 《自尊感情・共生社会の実現・コミュニケーション能力》 (技能的側面)
	道徳	君、想像したことがある？	・いじめをする人間の醜さに気づき、自分の弱さに打ち勝って、差別や偏見、いじめのない社会の実現に努める力を育てる。	【子ども】 《生命尊重・自他の尊重》 (技能的側面)
	保健体育	水泳	・水難事故から命を守る方法を学ぶとともに、命の尊さを考えさせる。	【その他の重要課題】 《生命尊重》 (技能的側面)
9	学級活動	運動会に向けて	・ブロック活動や学年団体種目などの練習を通して、仲間と協力することの意義と大切さを体得する。	【その他の重要課題】 《人間関係を調整する力》 (技能的側面)
	社会	さまざまな身分とくらし	・江戸時代の身分制度によって職業や居住地など人々の生活の様子が違っていることを知る。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (知識的側面)

10	理科	ヒトの体のつくり	・実験や観察を通して、ヒトの体のつくりを知り、神秘的なメカニズムを逞解するとともに、命の尊さを学ばせる。	【その他の重要課題】 《生命尊重》 (価値的・態度的側面)
	保健体育	器械運動	・ともに教え合い、技能の向上に努めることで相互理解を深める。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	音楽	学年合唱の発表	・学級の仲間とともに合唱曲をつくり上げる過程を通して、より深い絆を築かせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
11	道徳	夕やけがうつくしい	・主人公の誤いに共感することで、差別の不合理さに慣れを感じ、差別を許さない強い意志と、それに立ち向かうとする態度を育成する。	【同和問題】 《人間の尊厳》 (価値的・態度的側面)
12	保健体育	武道	・互いを尊重し合いながら、稽古をすることで感謝や相手を敬うことの大切さを理解させる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	特別活動	人権フェスティバル	・久万高原町による様々な人権に関する催しを観覧し、人権に関する理解を深める。	【その他の重要課題】 《共生社会の実現》 (知識的側面)
	国語	立場を尊重して話し合おう	・互いの立場を理解しながら、他者とのよりよい関わり方について考える。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
1	数学	図形の性質	・自分の考えを、論理的に筋道を立てて、相手に分かりやすく説明することができる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	特別活動	少年のE記念集会	・自分の生活が、様々な人によって支えられていることに気付く。	【ア・ドモ】 《自尊感育》 (価値的・態度的側面)
2	道徳	春取りの医者	・人間としての尊厳を持って生きることの大切さに気付き、生命の尊さについての理解を基に、自己の生き方を考える続ける力を培う。	【その他の重要課題】 《生命尊重》 (技能的側面)
	保健体育	球技	・チームで話し合い、練習方法や試合の作戦を立てることでより深いつながりをつくとともに、ルールの遵守や運動のできる生徒へ配慮する等、よりよい人間関係づくりに必要なことを学ばせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
3				

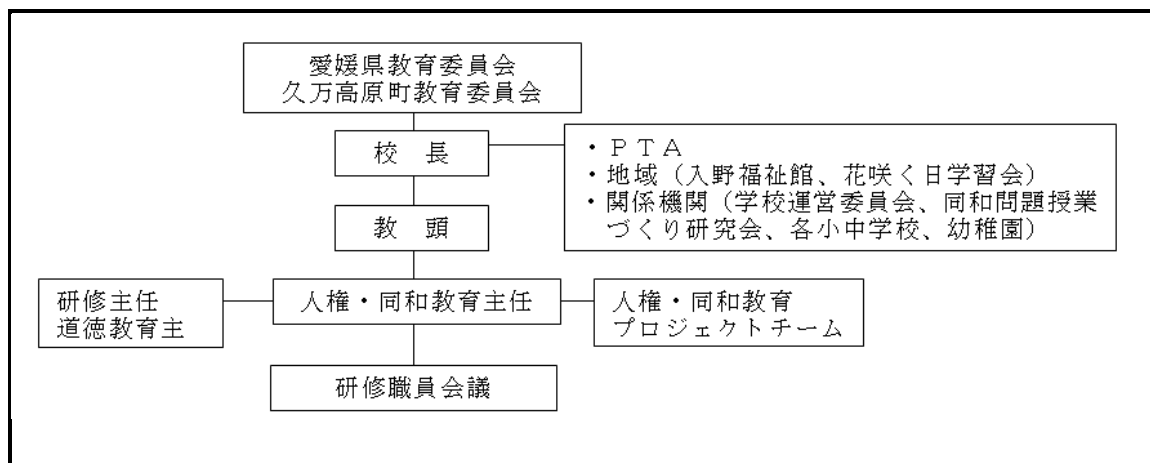
## 令和5年度 人権・同和教育年間指導計画 久万高原町立久万中学校 3年生

月	教科等	教材名 題材名	人権・同和教育の視点	【個別の人権課題】 《普遍的な視点》 (3つの側面)
4	学級活動	学級開き	・教師の生き方を語り、本音で関わり合う関係をつくる。	【その他の重要課題】 《共感的に理解する力》 (価値的・態度的側面)
	保健体育	体づくり運動	・ペアで体はぐし運動などを行い、相互に心身の状況を理解させる。	【その他の重要課題】 《コミュニケーション能力》 (技能的側面)
5	社会	第一次世界大戦中の日本と中国	・大戦中に日本が行ったことを学び、その不合理さを知る。	【その他の重要課題】 《人間の尊厳・生命尊重》 (知識的側面)
	社会	民族の自決	・人間はだれに支配されることもなく、自分たちで決定する権利を有することを理解させる。	【その他の重要課題】 《法の下での平等》 (知識的側面)
	保健体育	感染症の予防：HIV	・エイズ患者・HIV感染者に対する偏見や差別をなくす態度を育てる。	【エイズ患者・HIV感染者】 《公正な判断》 (価値的・態度的側面)
	道徳	卒業文集最後の二行	・いじめを引き起こす人間の弱さや強さに気づき、差別や偏見、いじめや不正な言動を断固として許さない意欲を育てる。	【子ども】 《差別を見極める力》 (価値的・態度的側面)
6	技術・家庭	(技術)情報モラル	・インターネットやSNS利用のモラルについて学習し、プライバシーの保護や相手のことを考えた活用法について理解を深める。	【インターネットによる人権侵害】 《法の下での平等》 (知識的側面)
	技術・家庭	(家庭)幼児の特性	・幼児の特性を知り、子どもを守り育てる保育の意義を学ばせる。	【子ども】 《人間の尊厳》 (知識的側面)
	美術	人権ポスター	・自分が学習した個別の人権課題について、啓発ポスターに表すことで自他の人権意識を高める。	【縦がいのある人・司和問題・性的指向・性自認】 《自他の尊重》 (価値的・態度的側面)
	社会	日中戦争	・戦争の背景を知り、相互の人々の気持ちに立って考える。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	道徳	橋への思い	・部落差別に苦しみ悩む気持ちを想像し、自分のこととして考え、差別のない、誰もが幸せに生きていく社会を実現しようとする態度や姿勢を養う。	【同和課題】 《共生社会の実現》 (価値的・態度的側面)
	社会	アメリカ大陸の動き・沖縄	・太平洋戦争中の沖縄の惨状に憤りを感じるとともに、戦後の沖縄の復興と苦悩について学ぶ。	【その他の重要課題】 《人間の尊厳》 (知識的側面)
7	理科	生物の成長と生殖	・生物の成長と生殖、遺伝現象について理解するとともに、生命の連続性について認識を深める。	【その他の重要課題】 《生命尊厳・自尊感情》 (価値的・態度的側面)
	英語	Faithful Elephants	・生命の大切さ、戦争によって奪われるものが何かを考えさせる。	【その他の重要課題】 《生命尊厳》 (価値的・態度的側面)
	保健体育	水泳	・水難事故から命を守る方法を学び、命の尊さを考えさせる。	【その他の重要課題】 《生命尊厳》 (技能的側面)
9	学級活動	運動会に向けて	・ブコック活動や学年団体種目などの練習を通して、仲間と協力することの意義と大切さを体得させる。	【その他の重要課題】 《人間関係を調整する力》 (技能的側面)
	社会	日本国憲法の制定・民主政治・基本的人権の尊重	・基本的人権について学び、国民の権利や男女平等などについて考えさせる。	【女性・子ども・高齢者】 《法の下での平等》 (価値的・態度的側面)

10	保健体育	器械運動	・ともに教え合い、技能の向上に努めることで相互理解を深める。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	音楽	学年合唱の発表	・学級の仲間とともに合唱曲をつくり上げる過程を通して、絆を築かせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	英語	The Story of Chocolate	・フェアトレードチョコレートについて理解するとともに、世界の子どもたちの人権について考える。	【子ども】 《人間の尊厳》 (価値的・態度的側面)
11	社会	裁判と人権	・基本的人権を守るための制度について理解させる。	【子ども】 《法の下での平等》 (知識的側面)
	道徳	小春日和	・部落差別の実態を自分に関わりのある問題として捉えさせ、今もなお社会に残る不合理な差別や偏見を正しく理解し、その解消に向けて立ち向かおうとする実践意欲を育成する。	【同和問題】 《差別を見極める力》 (技能的側面)
12	特別活動	人権フェスティバル	・久万高原町による様々な人権に関する催しを観覧し、人権に関する理解を深めさせる。	【その他の重要課題】 《共生社会の実現》 (知識的側面)
	国語	聞き上手になろう	・相手の伝えたいことをしっかりと聞き、理解しようとすることで、互いを尊重することの大切さを学ばせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (価値的・態度的側面)
	道徳	ある先輩からの手紙	・差別の現実に学ぶとともに、差別に負けない生き方に共感させ、差別解消に向けての意欲や実践力を高める。	【同和問題】 《問題解決のための技能》 (技能的側面)
1	社会	世界平和と安全	・国際社会における世界の平和と安定に寄与する日本の立場を理解する。	【外国人】 《多様性の尊重》 (知識的側面)
	道徳	海と空 樺野の人々	・人と人との心の通い合いのよさに気づき、人は互いに支え合って生きていることを自覚し、思いやりと感謝の気持ちを持って他者に接していかこうとする意欲を育てる。	【外国人】 《多様性の尊重》 (価値的・態度的側面)
2	社会	北朝鮮による拉致問題	・拉致問題が重大な人権侵害であることを学ばせ、解決に向けて何ができるのかを考えさせる。	【北朝鮮による拉致問題】 《問題解決のための技能》 (技能的側面)
	保健体育	球技	・チームで話し合い、練習方法や試合の作戦を立てることでより深いつながりをつくるとともに、よりよい人間関係づくりに必要なことを学ばせる。	【その他の重要課題】 《自他の尊重》 (技能的側面)
	英語	Malala's Voice for the Future	・マララさんの生き方を通して、戦争の禍や教育を受けることのできる社会について考えさせる。	【子ども】 《人間の尊厳・生命尊重》 (価値的・態度的側面)
	数学	標本調査	・正しい根拠を明らかにしながら説明できる力を養う。	【その他の重要課題】 《公正な判断》 (技能的側面)
	3 学級活動	卒業にあたって	・同じ学舎で学んだ仲間や恩師への感謝の気持ちを言葉や行動で示す。	【その他の重要課題】 《自尊感育》 (技能的側面)



## 6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）



### ○関連資料

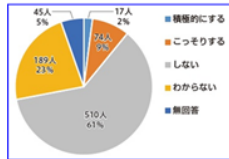
2年A組  
学級通信

まもるHYPER

第19号  
2023  
06/14

## 久万高原町アンケートおし。

昨日は、久万高原町のアンケートをもとに考えました。特にみんなに考えてもらったのが、「家族が結婚するとき自身調査をしますか」の結果（グラフ）です。電文時代からさかのぼって、「なんか昔の話だな」と思っていたかもしれない人も、この結果を見ると、いろいろと考えますよね。いろいろみんなの意見を聞いたのは、「こっそりする」について。自分がしていることに後ろめたさがある。悪いということはおわっている。でも…。これが、この問題の根深さだと思います。



- 積極的にする 17人 2%
- こっそりする 21人 5%
- しない 14人 21%
- わからない 51人 61%
- 無回答 4人 5%

★僕は今日授業をして、こっそりするというのは、相手の人の気持ちからすると、**知らない内に自分の情報を知られていたと思うと嫌な気持ち**になるし、それが久万高原町内にもする人がいるんだと知ってびっくりしました。

★久万高原町でもまだ多くの人たちが自身調査をして、中には、こっそりする人もいて、**自分が生まれ育った町だからこそ**、悲しいなと思いました。

★こっそりされると、まわりの人は気が付かないから、差別をされている人はとても辛く、**くやしい**と思います。自分は、周りを見ることが苦手なので、気が付くことが少ないと思うけど、周りを気にしながら生活していきたいです。

**【人権学習に関する学級通信】**